

ミヤコタナゴ保護増殖試験

戸井田伸一

ミヤコタナゴは日本産淡水魚の中で絶滅の恐れのある種として、昭和49年国の天然記念物に指定されているが、本県では当該が唯一の生息地（飼育地）となっている。当該では昭和54年度から飼育池を利用した繁殖試験を実施するなど、種の保存増殖に努めており、昨年に引き続き横浜市教育委員会の依頼に基づく保護増殖受託事業を実施したので、その結果を報告する。

飼育現在量

昭和62年 3月31日現在の飼育尾数は親魚795尾、当歳魚513尾の計1,308尾である。

人工採苗技術開発試験

昭和61年 4月18日から 6月28日までの間、雌親魚145尾を用いて人工採苗を行った。

人工採苗の方法は、乾導法により搾出した卵を媒精後0.1～0.2%食塩水の入った1ℓビーカーに移し、水温が22℃を維持するよう低温恒温槽で管理した。

浮上するまでは、無給餌で、適時水替えを行った。
主に使用した雌80尾の産卵経過は第1表のとおりで、雌1尾当たり平均採卵回数6.7回、1回当たり採卵数6.2個、1尾平均41.1粒の採卵ができた。

採卵間隔は、8.2～12.0日であった。

野外飼育池における産卵試験

屋外飼育池（2×2×0.4m）6面に雌雄各10尾を放ち、産卵母貝としてNa1にマツカサガイ30個、Na2にマツカサガイ100個、Na3にオトコタテボシ69個、Na4にイシガイ41個、Na5にドブガイ111個、Na6にマツカサガイ134個を入れ自然産卵させた。

貝は産卵期間中移動せず、浮上した稚魚を数えながら別の池に移した。

各池には湧水を約1ℓ／分（15～16℃）注水した。

餌料としてアユ用配合飼料を適宜与えた。

試験結果は、第2表のとおりで、マツカサガイからは48, 158, 209尾の合計415尾浮上したものの、ドブガイからは1尾、イシガイとオトコタテボシからは0尾とマツカサガイ以外ではほとんど浮上しない結果となった。

マツカサガイの貝1個当たりの浮上尾数は、1.56～1.60尾／個と貝の密度による差は認められず、貝の総数により稚魚の生産量が増加する傾向がみられた。

第1表 人工採卵結果（量産区）

水槽 No	雌尾数 (A)	採 卵 期 間	日 数 (B)	採卵回数 (C)	卵 数 (D)	平均採卵 回数 (C/A)	平均採卵 個数 (D/A)	採卵間隔 (日) (B×20/C)
1	20	4月23～7月11日	79	132	684	6.60	34.20	11.97
2	20	5月12～7月11日	60	117	809	5.85	40.45	10.26
3	20	5月 2～7月11日	70	147	923	7.35	46.15	9.52
4	20	5月15～7月11日	57	139	875	6.95	43.75	8.20
計	80		79	535	3,291	6.69	41.14	9.99

第2表 野外試験池による繁殖結果

池 No	貝 の 種 類	貝の数 (A)	雌尾数 (B)	浮 上 期 間	浮上尾数 (C)	貝 1 個当り 浮上尾数(C/A)	雌 1 尾当り 浮上尾数(C/B)
1	マツカサガイ	30	10	6月24日～9月12日	48	1.60	4.80
2	マツカサガイ	100	10	6月20日～9月12日	158	1.58	15.80
3	オトコタテボシ	69	10		0	-	-
4	イ シ ガ イ	41	10		0	-	-
5	ド ブ ガ イ	111	10	6月20日	1	0.01	0.10
8	マツカサガイ	134	10	7月 3日～9月19日	209	1.56	20.90
合計					416		